



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月29日

上場会社名 石井食品株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2894 URL http://www.ishiifood.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長執行役員 (氏名)長島 雅
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員管理本部総括マネージャー (氏名)石井 隆 (TEL)047(459)7541
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	4,766	△2.8	△223	—	△215	—	△235	—
24年3月期第2四半期	4,905	0.5	△278	—	△273	—	△294	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 △268百万円(—%) 24年3月期第2四半期 △273百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
25年3月期第2四半期	円 銭 △12.80	円 銭 —
24年3月期第2四半期	円 銭 △16.03	円 銭 —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
25年3月期第2四半期	百万円 9,487	百万円 5,205	% 54.9
24年3月期	9,980	5,528	55.4

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 5,205百万円 24年3月期 5,528百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
24年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 3.00	円 銭 3.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	△0.5	100	—	100	—	50	—	2.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.6「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P.6「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	18,392,000株	24年3月期	18,392,000株
25年3月期2Q	34,176株	24年3月期	33,923株
25年3月期2Q	18,357,896株	24年3月期2Q	18,358,956株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の経済環境は、高齢者の増加、1人2人世帯での食事の増加、食物アレルギーや生活習慣病で食事を制限しなければならない人の増加等により食に対する価値観が大きく変化してきております。また、東日本大震災以降、今後発生する可能性がある震災に対する防災対策の必要性や電力不足による対策等様々な影響が起きています。

そのような状況の中、「健康に気遣いたいが良い食事ができない」、食物アレルギーを持つ子供の母親から「安心して食べさせられる商品が少ない」、震災の時には「火と水が無くともな食事ができなかった」「食物アレルギーを持つ子供は食べられる物がなく本当に困った」、「自然で美味しく食べられる商品が欲しいがなかなか探しても少なく困っている」などのお客様からの声が多く寄せられています。

当期はそのようなことへの対応を課題とし、商品開発とサービスにより解決するための活動を行っております。

7月には京丹波工場で食物アレルギー配慮の専用工場が完成いたしました。この工場は「生産ライン」「人」「水」「空気」が持ち込むアレルゲンを徹底的に排除する設備を整えております。現在は、この工場で生産した商品を食物アレルギーの子供を持つ親の会等にサンプルを配布し、商品に対するご意見やご要望をお伺いしながらテスト販売を8月より開始しております。

非常食については、震災時に本当に困った方からのご意見を伺い、「火と水が無い状況でも美味しく食べられる商品が欲しい」、また卵・乳の食物アレルギーの子供を持つ母親から「安心して食べさせられる商品を開発して欲しい」とのご要望を頂き、8月より販売を開始し好評を得ております。

塩分とカロリーを気遣う方への惣菜（里芋、きんぴらごぼう、サラダ等）、調理ソース（ドレッシング等）、玄米を中心にした食事の提案と販売を7月より選定したスーパーマーケットで行うと共に、ダイレクト販売も開始しております。

自然で美味しい食事をしたいとのご要望に応えるため、イシイのブランドは無添加調理（当社での製造過程においては食品添加物を使用しておりません）で製造しております。7月から発売しております炊き込みご飯シリーズでは、特に「栗ごはん」は栗の持つ自然な色合いと風味が良く「美味しい」と好評を頂き、まぜご飯シリーズと合わせ売上が前年同期比102%と実績を伸ばしました。この実績から、当社の取り組みが少しずつお客さまに浸透してきていると考えております。

流通チャネル別の状況は、スーパーマーケットでは大人のお弁当提案や食事の提案を行いました。プライベートブランドの品揃え強化と価格競争の影響を受け、主力のハンバーグ・ミートボール・とりそばろは売上が減少いたしました。

生協、宅配、ダイレクト販売においては、食事でお困りの生活者への確かな情報提供と食事の提案を積極的に行ったことにより、売上が前年同期比134%と実績を伸ばしました。

このような活動を行ってまいりましたが、当社を取り巻く事業環境は依然厳しい環境が続いており、価格競争と低価格志向の影響により、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は47億66百万円（前年同期比1億38百万円減）となりました。一方、販売費及び一般管理費は予算管理の厳格化により前年同期比で88百万円削減したものの、営業損失は2億23百万円（前年同期は2億78百万円の営業損失）となりました。経常損失は2億15百万円（前年同期は2億73百万円の経常損失）となり、また、固定資産処分損及び法人税等を計上した結果、四半期純損失は2億35百万円（前年同期は2億94百万円の純損失）となりました。

製品別チャネル別業績の概況は、次のとおりであります。

(単位:千円)

製品別売上高	前第2四半期連結累計期間 (23.4.1～23.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (24.4.1～24.9.30)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	4,473,221	91.2	4,298,472	90.2	△174,749	96.1
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	188,375	3.8	192,883	4.0	4,507	102.4
惣菜(サラダ・煮物他)	183,016	3.7	179,148	3.8	△3,868	97.9
調理用ソース	21,999	0.5	16,470	0.3	△5,528	74.9
冷凍食品	3,597	0.1	22,682	0.5	19,084	630.6
配慮食	3,163	0.1	13,741	0.3	10,578	434.4
その他	31,643	0.6	43,474	0.9	11,831	137.4
合計	4,905,017	100.0	4,766,874	100.0	△138,143	97.2

(単位:千円)

(チャネル別内訳)	前第2四半期連結累計期間 (23.4.1～23.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (24.4.1～24.9.30)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
スーパーマーケット・小売店他		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	4,259,267	92.5	4,065,176	93.2	△194,091	95.4
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	178,236	3.9	157,885	3.6	△20,350	88.6
惣菜(サラダ・煮物他)	118,124	2.6	69,215	1.6	△48,908	58.6
調理用ソース	18,157	0.4	12,557	0.3	△5,599	69.2
冷凍食品	2,050	0.0	16,039	0.4	13,989	782.2
配慮食	-	-	2,179	0.0	2,179	-
その他	27,368	0.6	37,655	0.9	10,287	137.6
合計	4,603,204	100.0	4,360,711	100.0	△242,493	94.7

宅配・生協他	金額		金額		金額	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	213,954	70.9	233,296	57.4	19,341	109.0
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	10,139	3.4	34,997	8.6	24,858	345.2
惣菜(サラダ・煮物他)	64,892	21.5	109,932	27.1	45,040	169.4
調理用ソース	3,841	1.3	3,912	1.0	71	101.9
冷凍食品	1,546	0.5	6,642	1.6	5,095	429.5
配慮食	3,163	1.0	11,562	2.9	8,398	365.5
その他	4,274	1.4	5,818	1.4	1,544	136.1
合計	301,812	100.0	406,162	100.0	104,350	134.6

①食肉加工品 (ハンバーグ・ミートボール他)

スーパーマーケットチャネルでは、プライベートブランドの品揃え強化と価格競争の影響を受け売上は減少しましたが、生協チャネルでは「ミートボール」をリニューアルし、お弁当の提案を積極的に行った結果、売上は好調に推移いたしました。

② 炊き込みご飯の素・まぜご飯の素

「栗ごはん」「松茸ごはん」の自然な色合いと風味が高く評価された他、2人世帯が増加する中、少人数向けの「まぜご飯の素」が美味しく食べられるとの好評を得て、売上は好調に推移いたしました。また、新製品「パエリアの素」を限定店舗で販売し、ハレの日向けの食事の提案として好評を得ました。

③ 惣菜（サラダ・煮物他）

サラダ類は、スーパーマーケットチャネルにおいて価格競争の影響を受け売上が減少しましたが、宅配・生協チャネルにおいては地産地消として、千葉県食材を使った「おさつの白いスイーツサラダ」「おさつの黄色スイーツサラダ」が高く評価されました。また、「ごぼうサラダ」も世帯人数の減少に合わせ量目を減らしリニューアルをした結果、売上が好調に推移いたしました。

④ 調理用ソース

ファミリータイプの調理用ソースは、1人2人世帯が増加したことにより売上が減少いたしました。

⑤ 冷凍食品

スーパーマーケットチャネルでは、業務用としての「中華丼」が麺の具材として採用され、売上が増加いたしました。宅配・生協チャネルにおいては「黒酢の酢豚」が好評を得て、売上が増加いたしました。

⑥ 配慮食

宅配・生協チャネルでは、塩分・カロリーを配慮したシリーズ「チキンカレー」「リゾット」「ナスと挽肉のキーマカレー」「ホタテのクリームシチュー」「クリームシチュー」が高齢者、妊婦、乳幼児を持つ母親から好評を得て、売上が増加いたしました。

⑦ その他

「非常食」については、スーパーチャネル、宅配・生協チャネル、ホームセンター等で防災の日に合わせて火も水も使わず美味しく食べられることを訴求した結果、好評を得て売上が増加いたしました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は94億87百万円（前連結会計年度末比4億93百万円減）となりました。主な要因は、現金及び預金の減少7億93百万円及び有形固定資産の増加2億93百万円です。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は42億82百万円（前連結会計年度末比1億69百万円減）となりました。主な要因は、未払金の支払等によるその他流動負債の減少1億46百万円です。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は52億5百万円（前連結会計年度末比3億23百万円減）となりました。主な要因は、四半期純損失の計上2億35百万円及び配当金の支払55百万円です。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は14億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億93百万円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりです。

営業活動により使用した資金は2億53百万円（前年同期は1億31百万円の使用）となりました。主な要因は、売上債権の増加及び工場再構築費用に係る支出です。

投資活動により使用した資金は46百万円（前年同期は9億85百万円の使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出及び定期預金の払戻による収入です。

財務活動により使用した資金は93百万円（前年同期は91百万円の使用）となりました。主な要因は、配当金の支払及び長期借入金の返済です。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の連結業績予想に関する事項につきましては、平成24年10月26日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ3百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,499,280	2,705,438
売掛金	1,381,626	1,534,496
商品及び製品	80,550	45,984
仕掛品	2,745	6,097
原材料及び貯蔵品	172,614	204,012
その他	119,057	115,499
貸倒引当金	△1,475	△1,635
流動資産合計	5,254,399	4,609,892
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,617,144	1,921,764
機械装置及び運搬具(純額)	801,418	799,368
工具、器具及び備品(純額)	65,510	64,440
土地	906,296	906,296
リース資産(純額)	28,423	24,228
建設仮勘定	9,486	5,418
有形固定資産合計	3,428,279	3,721,516
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,226,360	1,095,652
貸倒引当金	△50,084	△50,084
投資その他の資産合計	1,176,276	1,045,568
固定資産合計	4,726,361	4,877,689
資産合計	9,980,761	9,487,582
負債の部		
流動負債		
買掛金	503,723	532,282
短期借入金	1,630,000	1,630,000
1年内返済予定の長期借入金	67,560	67,560
未払費用	759,039	743,364
未払法人税等	15,099	15,002
賞与引当金	75,561	74,605
その他	317,861	171,790
流動負債合計	3,368,844	3,234,604

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	61,210	27,430
退職給付引当金	333,510	336,758
資産除去債務	25,916	25,927
長期未払金	139,894	139,894
その他	22,743	17,884
固定負債合計	1,083,275	1,047,895
負債合計	4,452,119	4,282,499
純資産の部		
株主資本		
資本金	919,600	919,600
資本剰余金	672,801	672,801
利益剰余金	3,970,509	3,680,390
自己株式	△8,341	△8,389
株主資本合計	5,554,569	5,264,401
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△26,517	△58,302
繰延ヘッジ損益	589	△1,017
その他の包括利益累計額合計	△25,927	△59,319
純資産合計	5,528,641	5,205,082
負債純資産合計	9,980,761	9,487,582

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	4,905,017	4,766,874
売上原価	3,235,781	3,131,180
売上総利益	1,669,236	1,635,693
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	331,933	305,877
支払手数料	134,118	146,535
運搬費	574,400	557,876
販売促進費	166,524	176,085
その他	740,715	673,311
販売費及び一般管理費合計	1,947,691	1,859,686
営業損失(△)	△278,454	△223,993
営業外収益		
受取利息	3,238	2,930
受取配当金	6,127	5,818
受取保険料	—	8,929
廃油売却益	5,986	6,668
その他	11,303	7,516
営業外収益合計	26,656	31,863
営業外費用		
支払利息	13,990	13,569
たな卸資産廃棄損	5,950	9,304
その他	2,004	49
営業外費用合計	21,945	22,923
経常損失(△)	△273,744	△215,052
特別損失		
固定資産処分損	8,985	9,846
特別損失合計	8,985	9,846
税金等調整前四半期純損失(△)	△282,729	△224,899
法人税等	11,507	10,145
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△294,236	△235,045
四半期純損失(△)	△294,236	△235,045

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△294,236	△235,045
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22,283	△31,784
繰延ヘッジ損益	△1,778	△1,607
その他の包括利益合計	20,504	△33,391
四半期包括利益	△273,731	△268,436
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△273,731	△268,436
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△282,729	△224,899
減価償却費	246,118	229,512
賞与引当金の増減額(△は減少)	3,122	△955
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△10,626	3,248
長期未払金の増減額(△は減少)	△12,110	—
受取利息及び受取配当金	△9,366	△8,749
支払利息	13,990	13,569
固定資産処分損益(△は益)	8,985	9,846
売上債権の増減額(△は増加)	△146,296	△152,869
たな卸資産の増減額(△は増加)	16,307	△182
仕入債務の増減額(△は減少)	10,109	28,558
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	61	273
未払消費税等の増減額(△は減少)	13,165	2,249
その他	△12,481	△3,440
小計	△161,750	△103,837
利息及び配当金の受取額	9,372	8,233
利息の支払額	△13,501	△13,581
工場再構築費用の支出額	—	△135,801
法人税等の還付額	47,260	1,933
法人税等の支払額	△13,373	△10,516
営業活動によるキャッシュ・フロー	△131,992	△253,569
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,660,000	△1,260,000
定期預金の払戻による収入	863,000	1,760,000
有形固定資産の取得による支出	△165,987	△545,384
投資有価証券の取得による支出	△1,213	△1,236
その他	△20,973	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△985,175	△46,587
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	360,000	360,000
短期借入金の返済による支出	△360,000	△360,000
長期借入金の返済による支出	△33,780	△33,780
リース債務の返済による支出	△2,259	△4,781
自己株式の取得による支出	△173	△48
配当金の支払額	△55,078	△55,074
財務活動によるキャッシュ・フロー	△91,291	△93,683
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,208,459	△393,841
現金及び現金同等物の期首残高	2,826,519	1,839,280
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,618,060	1,445,438

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

該当事項はありません。